

(様式2)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成22年 12月 1日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3470102884		
法人名	社会福祉法人可部大文字会		
事業所名	グループホーム（山まゆ）フルーツハウス		
所在地	広島県広島市安佐北区大林町字根谷162番地の2 電話（082）818-6011		
自己評価作成日	平成22年9月28日	評価結果市町受理日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.hksjks.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=3470102884&SCD=320
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	（社福）広島県社会福祉協議会
所在地	広島県広島市南区比治山本町12-2
訪問調査日	平成22年10月25日

【事業所が特に力を入れている点、アピールしたい点（事業所記入）】

認知症の進行予防のため、1日の食事以外での水分として、1,500cc摂取を実践しています。また、地域とのつながりを開所以来、大切にしており、日々の散歩では、近所を散策したり、また、地域行事へも積極的に参加しており、地域からは、施設行事等のボランティアや災害時の救援など、友好的な共助のしくみが構築されている特徴があります。その他に、他グループホームを互いに訪問し合い、利用者同士の交流、介護の質向上に係る情報を共有するネットワークづくりも現在整いつつあります。そして、何より、現在入所者様全員が自力歩行ができる現状があります。様々な既往、年齢により、下肢筋力の低下が見られがちな傾向があることをふまえ、毎日、積極的に歩行時間の確保を行い、皆、笑顔で、毎日の散歩を楽しんでいただいております。やさしい笑顔のある山まゆへどうぞお越してください。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

併設の各事業所とは常に「一体的な運営を」という法人方針に沿って、一人ひとりの生活事情や、心身の状態に考慮した利用支援が図られています。グループホーム(山まゆ)フルーツハウス(以下、ホーム)は、とりわけグループホームならではの持ち味にこだわり、「おだやかな暮らし」の中にも、「その人らしい夢を持ち、叶えていこう」という年間スローガンを掲げ、利用者と共に日々その実現に向かわれています。「温泉に行きたい!」という利用者の願いを叶えるために、体調維持、下肢筋力の強化など具体的な生活目標を立て、その実践プロセスを通して、さらに生活の幅が広がったという利点も生じています。また、開設当初から地域との関わりを大切に、年間を通して地域との様々な交流を実践されています。その様子を冊子「あゆみ」にまとめておられます。防災の面でも地域組織と協力協定が交わされ、相互の協力体制が築かれています。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	理念を掲げている。毎朝行なう朝礼にて、管理者より理念を訓示し、職員の意識統一がなされている。 また、毎水曜日は、施設全体朝礼を行い、月間目標を実現するための、週間目標を各部より発表することとしている。	法人全体の理念である「山まゆ糸のような輝く人生を」は、毎年度の取り組み方針のバックボーンとし、職員相互の話し合いのもとに年間の事業方針が決められています。さらに、月間目標や、週間目標が立てられ実践につながっています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	地域からの行事参加、呼びかけには積極的に応じるとともに、地域密着型施設として、地域交流福祉フェスティバルも開催している。	開設以来、地域とのつながりを深め、地域行事への参加や保育園児、小学生との交流、高校生の見学実習の受け入れなど年間を通して積極的な交流が行われています。恒例となったフェスティバルは地域と合同で開催され、一大イベントとして親しまれています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	主任会議等を通して、地域で求められていること等をふまえた話し合い等を行ない、地元公民館共催の在宅高齢者介護教室、自治会主催のいきいきサロンでの講師等を担っている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	運営推進会議内では、多様な話し合いを行い、その後、フロアー会議内で報告、検討するなどし、サービス向上に努めている。	2か月ごとに開催される会議には区担当者の出席もあり、活発な意見交換の様子が議事録に記録されています。ホームからの報告、行政施策の伝達、地域の情報交換などさまざまな話し合いが行われ、ホームの運営に活かされています。	
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	区担当者だけでなく、広島市担当者への問い合わせ等も積極的に行うなど、最新の情報等を得るなどしている。	情報提供や相談を要することがあれば、その都度連絡をとり、必要な情報の共有に努めておられます。 市の委託研修なども引き受けられるなど協力関係も築かれています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	施設内研修を行ない、取り組んでいる。各部屋からは共用のバルコニーがあり、自由に出入りすることができるが、常時見守り態勢をとっている。	研修を通して職員の理解を深めると共に、抑圧感のない暮らしを実践されています。玄関に鍵はかけず、隣接するエントランス廻りの見守りに注意が払われています。利用者から出たいという意向があれば職員が同行するなど安全にも配慮されています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている。	管理者は、施設外研修に積極的に参加し、各法令を学び、施設内での研修を行ない、防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	管理者、サービス提供作成者を中心に、職員のレベルに応じた研修を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	入所に係る面接時等、また入所後も随時、利用者様、家族様からの意向を伺い、対応を行っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	苦情解決に係る整備を行ない、いつでも苦情を受け付け、解決に向け、体制を整えている。	毎月送付される家族宛の便りの中に、家族の要望を記入して返信する枠が設けられ、それらは介護計画見直しへの意見として活用されています。面会家族も多く、いつでも家族が意見や相談をしやすい雰囲気づくりを心がけておられます。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	フロアー会議を中心として意見を聞くこととし、提案については、積極的に行なうように指導している。	職員から出された意見はフロア会議で報告され、話し合うプロセスができています。また、業務日誌と併せて、気づきや意見を自由に記述し合う「何でもノート」が管理者に毎日届けられ、活用されています。「ホウ・レン・ソウ」が実行されるとともに管理者は、職員からの提案を期待する姿勢を持たれています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	メンタルヘルスにも力を入れ、メンタルヘルスカウンセラーを配置し取り組んでいる。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	介護福祉士へのスキルアップ等を積極的に支援している。次年度も介護福祉士への資格取得を目指している職員がいる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	他グループホームへの訪問や合同の行事への参加もあるなど、職員間の交流も有り、相互に情報交換を行い、サービスの質向上を互いに目指している。		
Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	個々の利用者様との対話を大切にし、利用者様が何に不安を抱えているのか等を聞いている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	家族様からの要望や困りごとなどは、積極的に話し合いを行ない、利用者様だけでなく、家族様も含めてのメンタルケア等も行なうようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	在宅生活等を強く望まれたりしている場合などは、在宅生活が支援できるように、他のサービスの情報をお知らせしたりなど、利用者様、家族様が求められていることを見極め、複合施設の利点を生かしながら、相談にのっている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	利用者様から教えていただくことも多く、その時は、「ありがとうございます」ときちんとお礼を述べ、介護するだけの存在にならないよう、人間対人間のあたたかい関係づくりを行なっている。また、利用者様と職員は、家族であるということを常に伝えている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	家族様からの意見を率直に伺うとともに、常に連携し、利用者様にとって何が一番いいのかを常に念頭においている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	一人ひとりが馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、配慮している。スーパーへの買い物、地域公園へのドライブ、近所に位置する入所者様宅までの散歩など実施している。	散歩の途中、住み慣れた我が家に立ち寄ったり、知人との再会を懐かしんだり、「山まゆの墓」へのお参りなど自然な形で以前の暮らしの継続が図られています。利用者が併設の事業所へ入所するにあたっては、職員の人事異動を考慮するなど馴染みの関係が大切と考えられています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	利用者同士の関係を把握し、孤立しないように、声かけや会話で誘導し、レクリエーションや日常生活で関わり合いを持っていただくようにしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	家族様の来訪、こちらからの家族様連絡などの配慮を行なっている。退所された利用者様、家族様の来訪もあり、相談も、随時、行なっている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	家族様と情報交換または、利用者様の意向を聞き、把握している。利用者様本位に検討し、利用者様の尊厳を守る配慮をしている。	一人ひとりに対して、聴き取りによる「利用者アンケート」が実施されると共に、ふだんの生活を通して思いの把握に努められています。本年度の行動目標でもあり希望である「夢をかなえるゾウ」が一人ひとりの顔写真入りで廊下のボードに貼られています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	面接時、本人の生活歴、生活習慣、環境を聞き把握している。また、家族様に協力いただき、聞き取りを行なっている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	介護記録、排泄、食事摂取量記録表、与薬、バイタルチェックなどで把握し、ケアプラン評価を行い、現状把握に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	利用者様、家族様、職員間との話し合いにより、意向を反映した介護計画を作成している。	併設のデイサービスやショートステイを経ての入居者も多く、必要な情報が介護計画に反映されています。また、モニタリングが毎月丁寧に行われ、実施状況の確認を踏まえ、家族の声を取り入れた介護計画が6か月ごとに立て直されています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	期間を設定した定期的な見直し、及び状態の変化に応じて、随時の見直しを行なっている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	利用者様や家族様の要望に応じ、受診時の送迎や買い物等の外出希望時、柔軟な支援を行なっている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	利用者様の意向や必要性に応じ、近隣学校の運動会への参加や地域行事も積極的に行なっている。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	内科、歯科医師の往診体制が整っており、ご本人様が希望する病院等も含め、急変時の連携も行なっている。	利用者の希望を尊重し、それぞれのかかりつけ医への受診が行われ、受診マニュアルも個別に作成されています。また、協力医の定期的な往診もあり、安心感が得られています。特に、歯科医との連携のもとで口腔ケアにも力を入れ、2週間おきに歯科衛生士の訪問指導があります。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	看護師と24時間連絡体制が整っており、日常的に協力し、介護状況の報告、情報交換を行ない、健康管理を支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	安心して退院できるよう、医師や看護師との情報交換や相談を行なっている。家族様との連絡等、退院後の生活に向けての連携を行なえるようにしている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	指針、マニュアルを整備し、施設内研修を実施するなどし、チームケアの支援体制を整えている。	契約時に「重度化した場合における対応についての指針」が家族に説明され、同意を得られています。その段階を迎えた時には、再度話し合い、出来るだけ意向に添う支援が行える体制作りに努めておられます。「ターミナルケア」「精神的ケア」について、看護師による内部研修も行われています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	マニュアルを作成しているとともに、初期対応の研修や施設研修にて対応等を学んでいる。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	マニュアルを作成しているとともに、広島市消防局、自治会との連携により、防災訓練等を行なっている。	過去の被災経験から災害対策を特に重要視し、防災研修や、昼夜それぞれを想定した避難誘導訓練が実施されています。また、近々、地元地域と初の合同避難訓練が実施される予定です。地域の自主防災組織とは協力協定が交わされています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	利用者様の人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねる言葉かけ、対応はしていない。また、記録等の個人情報の取り扱いは慎重に行なっている。	「利用者は家族」という思いから、寄り添うケアを実践されています。馴れ合いを起こさず、ケアの専門性を高めていけるよう、継続的に研修が行われています。また、個人情報の取り扱いについては現任研修を通して繰り返し学習されています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	職員は、利用者様が自己決定したり、希望を表出しすることを大切にし、それを促す等の取り組みを日常的に行なっている。また、よく分かるよう、納得がいくよう、説明をしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	利用者様のペースに合わせ、職員の都合により、強制することなく、安心して過ごせるように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	施設に来られる美容院との連携により、利用者様の意向を聞きながら、行なっている。また、パーマ、カラーなどを希望された場合は、なじみの美容院へ出かけられるなど支援をしている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	利用者様のペースに合わせながら、一緒に料理の準備をしたりしている。また、後片付けの茶碗洗いを役割とし、楽しみにされている利用者様もいらっしゃる。	平日は3食ともホームで調理されています。利用者は負担にならない範囲で豆のさや取り、梅のへた取り、ぬか漬け、干し柿作りなど、できること、得意なことに力が発揮されています。栄養士が、メニュー作成や、栄養面でのサポートをされています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	利用者様一人ひとりの食事摂取量を毎日チェックし、状態に応じた対応も随時行なっている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	毎日、きちんと歯磨き、歯の手入れ、うがいをするよう、職員が見守り、確認を行なっている。 また、あわせて、昨年度より、2週間に1回のペースにて、歯科衛生士による口腔指導を受けており、より細やかな支援が提供できている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	自然排便への取り組みを実践し、トイレにて排泄を行なっていただいている。	法人全体で「自然排便」に向けた取り組みが実施されています。「自然排便委員会」が設置され、「取り組み規程」も作られています。 ホームでも排泄表を使い、一人ひとりの排泄リズムに応じた声かけ、誘導が行われています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	腹部マッサージ、散歩、腸動を促す食事、乳酸菌飲料の提供などにより、下剤使用による排便ゼロに向けて、施設全体として取り組んでいる。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。	一応、決めてはいるが、健康状態、心身状態により中止にしたり、時間をずらすなど、ご本人のタイミングに合わせるようにしている。なお、中止した場合は、別日に入浴をしていただいている。	ゆったりと安全に入浴が楽しめるよう、一人ずつの利用とし、職員の見守りもあります。入浴好きな人が多く、毎日でもと言われる人もあります。よく見える位置に使用者の名前カードがさがられ、順番通りにスムーズな入浴タイムを楽しまれています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	生活のリズムとしてパジャマに着替え、眠れない方には、温かいお茶を飲むなどしながら、お話をし、夜の時間を過ごすなどその時々状況に応じた対応をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	職員は、薬の目的や副作用について把握していくこととし、服薬の確認、体調の変化等も記録している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	利用者様のレベルに応じた対応なので、充分とはいえないが、個々の利用者様に合わせた支援を行っている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	利用者様の希望により、2～3人で、散歩に出掛けたり、買い物に出掛けたりしている。	日々の散歩や買い物、地域行事への参加など外出の機会が増えるよう考慮されています。また、家族同伴の一泊温泉旅行の記憶はいつまでも利用者の心に残っており、今年も全員参加の旅のプランを計画されています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	利用者様の状態により、お金のトラブル、不穏を起こすこともあるので、管理は施設が行なっている。使用时、必要な分だけ、おひとりおひとりの財布に入れ、渡している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	利用者様のご希望により、電話等、家族様への連絡を行なっていただくようしている。		
52	19	○居心地の良い共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	居室内に自分のタンス、親しんだ小物等も置かれ、家庭的な感じをそのまま居室につくり出すようにしている。	玄関はいつも開放され、エレベーター前の玄関ホールとは一体感があり圧迫感のない広さがあります。雨の日でも明るく過ごせるよう照明にも気配りがあり、暖かい日には、ベランダで足浴が行われています。壁面には季節感のある飾り付けも行われ、外の景色とよく調和しています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	一人で座ってテレビをご覧になりたい利用者様には、一人用椅子とテーブルを設置するなどし、お一人おひとりの望む環境をつくっている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	居室内に自分のタンス、親しんだ小物等も置かれ、家庭的な感じをそのまま居室につくり出すようにしている。	暮らしの雰囲気が続けられるよう、本人にとって大切な物が多数持ち込まれ、安心できる場所づくりが行われています。掃き出し窓からベランダへは自由に出入りできるので、開放感があり、換気も充分行われています。自室のドアには部屋間違いを避けるため自分の作品を飾るなどの工夫があります。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	利用者様のペースに配慮しながら、できること、できそうなことを職員が見極め、すぐに介助に入るのではなく、残存機能を維持できるようなケアを含め、見守りを行なっている。歩行には歩行器をしようするなどし、歩くことへのサポート態勢をとっている。手すり等も配置し、物干し竿も低めにしている。		

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の3分の2くらいの
			③利用者の3分の1くらいの
			④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の3分の2くらいが
			③利用者の3分の1くらいが
			④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の3分の2くらいが
			③利用者の3分の1くらいが
			④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の3分の2くらいが
			③利用者の3分の1くらいが
			④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の3分の2くらいが
			③利用者の3分の1くらいが
			④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の3分の2くらいが
			③利用者の3分の1くらいが
			④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の3分の2くらいと
			③家族の3分の1くらいと
			④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
		○	③たまに
			④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係やとのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
66	職員は、活き活きと働けている		①ほぼ全ての職員が
		○	②職員の3分の2くらいが
			③職員の3分の1くらいが
			④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		①ほぼ全ての利用者が
		○	②利用者の3分の2くらいが
			③利用者の3分の1くらいが
			④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		①ほぼ全ての家族等が
		○	②家族等の3分の2くらいが
			③家族等の3分の1くらいが
			④ほとんどできていない

(様式3)

2 目標達成計画

事業所名

グループホーム（山まゆ）フルーツハウス

作成日 平成 22年 12月 23日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	23	平成22年度事業所目標として掲げる「夢をかなえるプロジェクト」を仕上げていく。	入居者お一人おひとりの「夢」を実現する。	入居者お一人おひとりの夢には、外出することが大きくふまえられているので、げんきに外出できるよう、歩行が維持できる機能訓練を取り入れたり、また体調維持できるよう、水分を1日1500cc摂取するなど、目標までのプロセスと位置づけたケアを実現していく。	4 か月
2	11	現在でも管理者、職員との「報連相」は実施しているが、新しいスタッフを迎えることをふまえ、本件を継続し実践していく必要がある。	管理者⇄職員の「何でもノート」をこれまで以上に活用する。	どんなに経験豊かな人材であっても、本グループホームでの業務は初めてであることを指導者は意識し、基本から丁寧な指導を行なうとともに、管理者、職員とのつながりを強化し、入所者への高品質なケアの提供とともに、サービス業であることを意識し、プロとしての接遇を行なえるよう取り組んでいく。	6 か月
3					
4					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。